蒼社川の"超ヘビー級"

今治

フクロウ保護の大切さを訴える石島さん

クロウを題材にした絵本や「いろはかるた」などもあるという。

石島さんは「フクロウは森の生態系の頂点。フクロウを大切にするのは、森全体を守ることにつながる」。

「フクロウに関心がある人はぜひ訪ねてほしい」と話し、物産展の期間中（十一月八日まで）会場でシマフクロウの保護を呼び掛ける。

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

緋色ミカエル（19）＝松山市・男子＝

ヤングデスクから

◆松山市のあすか龍星さん（15）から、投稿がいています。まったく新しい試みで、5回にわたる投稿形式の文です。タイトルは「めざせっ自分の夢っ！」。自分の夢を実現するために、仲間と若者で挑戦するというシリーズ作品です。

「マンガ家」志望そうですね。あなたも、ストーリーのしっかりした読みごたえのあるマンガ作品をつくってくれそうです。お父さんはあなたの夢に理解があるそうでよかったですね。

＝今治市・女子＝

（越智郡・女子）

真珠養殖場のヘドロなくそう

宇和島漁協 バクテリア浄化剤を散布

浄化剤をまく網・平浦地区の真珠養殖業者

真珠養殖場の海底にたまったヘドロ浄化を目指し、宇和島漁協（山下博文組合長、千四十二人）は二十九日、宇和島市の網代で、バクテリアを使った浄化剤を試験散布した。ヘドロから出る硫化物は養殖環境悪化を引き起こし、へい死などアコヤ貝の生育に影響するだけに、関係業者は期待している。

三十年前に真珠養殖が始まった同地区。平浦地区の養殖業者は五十三軒あるが、これまで貝のフンなどによるヘドロが、水深二十五－三十屋の海底に数十センチたまっている。「海を汚さない努力はもちろん、自分たちで汚した海は自分たちで美しく、子孫に引き継がなければならない」（山下組合長）という意識のもと、同地区の養殖業者が取り組んだ。浄化剤購入費など費用六百万円は大半が業者負担。

浄化剤は熊本市の民間会社が開発したもので、硫黄性バクテリアを粉状の岩石に染み込ませている。バクテリアが硫化物を分解し、海底を浄化する仕組み。関東や長崎県の漁協・養殖業者の間でも使用されている。本県でも去る二十日に明浜漁協が散布した。

同日は早朝から、養殖業者約四十人が作業。八万平方の海全域に一袋二十キロ入りの浄化剤七百五十個分をまいた。サンプル用のヘドロも採取。二カ月後に効果を調査する。

車の整備アピール
エコーはがき発売
県内で1日から

四国運輸局（松山市宮田町）は十一月一日から、「自動車点検・整備」をアピールするエコーはがきを県内で発売する。広告主は県自動車整備振興会。

「点検は人と車の合言葉」をスローガンに、同振興会が実施しているマイカーキャンペーンの一環として発売。自動車の安全確保と事故防止のため、マスコットキャラクターの「てんけんくん」をデザインし、点検整備の重要性をアピールする。

同日午前九時から、松山中央郵便局で記念スタンプサービスがある。